

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な生活背景と学習面を含む様々な課題を抱えた生徒一人ひとりにしっかりと寄り添い、自らの力で進路を切り拓いていく生徒の育成に取り組む。

ユネスコスクールとしての活動やコース制、学校設定教科や総合的な学習の時間等を効果的に活用し、卒業後に一人前の大人として経済的自立・社会的自立・精神的自立を果たせるように支援する学校をめざす。そのために、学力向上・キャリア教育・人権教育（自尊感情や人間関係力の育成を含む）・国際理解教育・規範意識の醸成などに取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力向上の取組み

(1) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。

ア 学ぶ意欲を育むため、わかる授業を全教科で創造していく。

イ 生徒の実態に即して、少人数展開授業や習熟度別授業などの効果的な活用を図る。

ウ 進学特別講習の実施や自習環境の整備を行うなど、生徒の実態に合わせた学習支援を推進する。

※学校教育自己診断〈生徒〉の授業に関する項目の肯定的意見の割合を前年度以上（65%）とする。

2 系統的なキャリア教育の展開～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

(1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」（以下「FC」）・教養B・教養体験・教養Cの内容を整理し、系統的な学習を推進する。

(2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募したり、新しい授業内容に取り組むことで、進路実現につなげる。

(3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。

※進路未決定率ゼロを維持し、学校教育自己診断〈生徒〉のキャリア教育に関する項目の肯定的意見の割合を前年度以上（61%）とする。

3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り～特に社会的自立・精神的自立に関わるもの

(1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。

アサーショントレーニング・アンガーマネジメントなどのコミュニケーション力育成とESD教育を推進する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 淀川清流高校生と一体となって部活動の活性化と充実をはかり、加入率を高める。

※部活動加入率（淀川清流含む）を前年度以上（18%）とする。

4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させることにより、地域に信頼される学校を確立する。

ア 頭髪指導の徹底を図る。

イ 自転車の二人乗りをなくすなど、通学マナー向上の取組みを強める。

ウ 遅刻指導を強化し基本的な生活習慣の確立を期する。

エ 挨拶する態度を確実に身に付けさせる。

(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。

生徒の複雑な生活背景をつかむ取組みを進める。家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成及び充実を図る。

(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり

ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させる。

ウ 広報活動を通じて、本校の取り組みを地域や保護者等へ丁寧にアピールする。

※中退率・生徒指導案件数を前年度以下（生徒指導案件数114件）とする。

5 教職員の資質向上とOJTの充実

(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。

(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。

(3) 教職員のICT活用能力を高める。

※研究授業・公開授業の回数・参加率を前年度以上（各教科1回、初任者2回、参加率100%）とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「中期的目標1 確かな学力向上の取組み」について、以下の項目の肯定的意見を検証した。</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 53%（昨年度比12p減） 保護者 41%（昨年度比28p減）</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 64%（昨年度比4p減） 保護者 43%（昨年度比17p減）</p> <p>両項目とも、生徒、保護者の肯定的意見が昨年度より減少している。 教員自身についても「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努</p>	<p>【第1回 6月9日開催】</p> <p>・キャリア教育について、自発的に学ぶ意欲を持たせるのがなかなか難しいが、実践的な取組みがなされるのはありがたい。</p> <p>・保健体育が好きという生徒が多いので、「あったらいいクラブ」といったアンケートを取ってみるのはどうか。</p> <p>・吹奏楽などの希望が出ると難しいところもあると思うが、楽器の充実を図ってはどうか。</p> <p>・PTAの規約の改正については、世の中の大きな流れだと思うが、PTAにしっかり関わることで学校に対する意識を持ってもらえるという側面もあった。行事のみの参加だとお手伝いのみになる懸念を感じる。学校の運営にどうコミットしてもらうかを考えてもらえればと思う。</p>

力をしている」が肯定的意見 89% (昨年度比 5p 減)「生徒の実態をふまえ、教科として指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」が 88% (昨年度比 4p 減) となっている。

教員の授業力向上を喫緊の課題としてとらえ、授業力向上のために本年度も実施している「授業アンケート」の個人での分析や教科ごとの分析結果の共有を綿密に行い、全校一斉授業見学や研究協議などの「授業見学・研修」をさらにすすめ、教員の授業力向上を図る。また、教員の努力と生徒の受け止めのギャップもあることから、生徒の学習状況の実態把握や生徒のニーズに応えられる授業づくりをいっそう進めることが必要である。

【進路指導等】

○「中期的目標 2 系統的なキャリア教育の展開」の進路指導については以下の項目の肯定的意見を検証した。

「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」

生徒 61% (昨年度比 5p 減)

保護者 79% (昨年度比 10p 減)

「学校は進路についての情報を知らせてくれる」

生徒 71% (昨年度比増減なし)

保護者 78% (昨年度比 3p 減)

「将来の進路や生き方について考える機会がある」

生徒 70% (昨年度比 9p 増)

教員自身も「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」が 76% (昨年度 11p 減) となっている。進路指導に関しても肯定的意見が減少しており、教員のキャリア教育に対する意識を高め、生徒が満足できるようキャリア教育の取組みを全校をあげて実施していく。

【生徒指導等】

○「中期的目標 3・4 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り、規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進」については以下の項目の肯定的意見を検証した。

「北淀高校に入学してよかった」生徒 72% (昨年度比 2p 減)

保護者 82% (昨年度比 5p 減)

「学校に行くのが楽しい」生徒 60% (昨年度比 1p 減)

保護者 62% (昨年度比 8p 減)

「先生は、いじめなど、私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」

生徒 70% (昨年度比 1p 増)

保護者 63% (昨年度比 11p 減)

「担任の先生以外にも保健室・相談室など、気軽に相談することができる先生がいる」

生徒 63% (昨年度比 6p 増)

保護者 51% (昨年度比 9p 減)

「国際理解・国際交流について学習する機会がある」

生徒 63% (昨年度比 2p 増)

保護者 54% (昨年度比 3p 増)

「部活動に積極的に参加している」

生徒 49% (昨年度比 7p 増)

保護者 34% (昨年度比 2p 増)

「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」

生徒 65% (昨年度比 1p 減)

保護者 65% (昨年度比 2p 増)

昨年度から微増、微減した項目があるが、生徒の居場所に係る部分（「北淀高校に入学してよかった」「学校に行くのが楽しい」）については、より魅力ある学校づくりが求められている。また、生徒に寄り添う部分（「困っていることについて真剣に対応」「気軽に相談できる先生がいる」）については、さらに丁寧な指導が求められている。部活動については、肯定的な意見が増加し、部活動参加率も 24.7% と増加したが、学校運営協議会の意見も踏まえて、部活動の活性化に向けた取組みの工夫をすすめる。

【その他】

○昨年度と肯定的意見の割合を比較すると、生徒は昨年度より上がっている項目は（24 項目中 8 項目）、保護者は（24 項目中 4 項目）、教員は（23 項目中 6 項目）であった。数値の下がった項目については一概に取組みが停滞しているともいえないが、各分掌・学年・委員会・教科等において分析と原因の究明をすすめ、改善に向けて取り組んでいく。

【第 2 回 10 月 27 日】

・授業アンケート結果について、教員が異動するたびに評価が下がるのは大きな課題。一定の質の授業を実施できるようにすべきではないか。

・地域の中学校では、生徒指導上厳しい状況の学校はなくなった。昨年度、勤務校で校内の喫煙がゼロになった。一方で、新たな課題も生起している。淀川清流高校も生徒が落ち着いてきたとのことだが、新たな課題も出てくると思う。このブロックの地域の野球大会を北淀高校でさせていただくなど、さまざまな中高連携を行っており、これからも連携をすすめていきたい。

・部活動に参加する生徒が増えたことは喜ばしい。昨年度までもこの場で、ダンス部など今の生徒の関心を惹くクラブの創設が話題になっていたと思うが、現在の状況はどうか。

【第 3 回 2 月 2 日】

・働き方改革に関わって、先生方に時間外労働の感覚が弱いと感じる。多忙感が生徒に伝わるので、無理してほしくない。先生は余裕をもって生徒と向き合ってほしい。

・気持ちよく挨拶してくれる生徒が多い印象を持っている。

・あいさつ運動は続けると成果が出る。来客にも挨拶するようになると印象が変わる。

府立北淀高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（ ）内は29年度	自己評価
1 確かな学力向上の取組み ～自立の基本となるもの	(1) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。	(1) ア わかる授業の創造 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づける。その上で、1回目のアンケート後に教科毎の公開授業と研究協議を実施。 2回目のアンケート結果をもとに成果と課題を確認。3学期早々の職員会議で全体で共有する。 イ 少人数展開授業や習熟度別授業の活用 ・生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、習熟度別授業、少人数展開授業、ティームティーチングのさらなる充実を図る。 ウ 生徒実態に合わせた学習支援 ・進学意欲の高い生徒に対して、長期休業前等に進学特別講習を実施する。 ・生徒の学習習慣の確立に向けて、生徒が放課後に校内で学習できる場を整備し、活用する。	(1) ア. イ ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.21、自己診断65%) ウ・進学特別講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。(2年9時間のべ46名、3年54時間58名) ・生徒が放課後に校内で学習できる場の整備に進展があったか。また、適切に活用できたか。	(1) ア. イ ・授業アンケートは3.24、学校教育自己診断では56%であった。各教科での授業アンケート等による振り返りにより、よりわかりやすい授業の創造に努めていきたい。(△) ウ・進学講習については、2年22時間延67人、3年50時間延105人と増えている。進学に意欲を持ち、熱心に学習に取り組む生徒が増えている。(○) ・キャリアガイダンスルームを設置し、自習ができる机を整備した。放課後生徒が教室で勉強する様子が見られた。(○)
2 系統的なキャリア教育の展開 ～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの	(1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)・教養の内容を検討し、系統的な学習を推進する。 (2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募することで、進路実現につなげる。 (3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。	(1) キャリア教育の再構成 キャリア教育の内容をFCと教養の授業に反映させ、新校のカリキュラムと連動して取り組む。 (2) 造形コースの工夫改善 ・専門コース「造形」がより生徒の期待に応えるものとなるように、また新校の系列選択と連動した授業内容等のさらなる充実を図る。 ・学外での美術工芸展に積極的に応募する。 (3) 情報コースの工夫改善 ・専門コース「情報」がより生徒の期待に応えるものとなるように、また新校の系列選択に連動した授業内容等のさらなる充実を図る。 ・各種検定受験者数や合格率の向上を図る。	(1) ・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(61%) (2) ・授業アンケートにおいて、造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.36) ・学外での美術工芸展への応募数が前年度を上回ったか。(62件) (3) ・授業アンケートにおいて、情報コースの生徒の「情報」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.20) ・各種検定受験者数、合格率が前年度を上回ったか。(受験者数90名、合格率85.6%)	(1) ・学校教育自己診断においては、肯定的な回答が70%と前年度を上回った。(○) (2) ・授業アンケートの結果は3.62と、前年度を上回った。授業内容等の更なる充実に努め、新校の系列の特色ある選択科目に引き継いでいきたい。(◎) ・学外での美術工芸展の応募数は111件と増加した。(◎) (3) ・授業アンケートの結果は3.20と前年度並みであった。教科において改善に努め、新校の系列の特色ある選択科目に引き継いでいきたい。(○) ・各種検定受験者数は96名、合格率91.7%と前年度を上回った。積極的に受験する生徒が増加している。(○)
3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り ～特に社会的自立・精神的自立に関わるもの	(1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。	(1) 人権教育・国際理解教育の取組み ・アサーショントレーニングなどのコミュニケーション能力育成の取組みを行う。 ・障がい者との交流、JICA講演、留学生交流などを実施する。 ・アンガーマネジメントやネットリテラシー、虐待から考える性教育など、新たな人権教育の取組みを創造する。 (2) ア・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組を増やすなど、体育祭、文化祭等の学校行事のさらなる充実を図る。 イ・淀川清流高校の取組みと連動して、2年生3年生からでも部活動に加入できる雰囲気作りに取り組む。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。	(1) ・学校教育自己診断において、「人権教育」「国際理解教育」の項目の肯定的評価が前年度を上回ったか。(人権65%、国際理解61%) ・生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」が前年度を下回ったか。(計28件) (2) ア・学校教育自己診断において、学校行事の満足度が前年度を上回ったか。(自己診断67%) ・学校行事に更なる工夫改善を行えたか。 イ・部活動加入率が前年度より上回ったか。(20.8%) ・部活動加入増に向けた更なる工夫改善を行えたか。	(1) ・人権教育は62%で昨年度より微減し、達成できなかった。(△) 国際理解教育は63%で昨年度より微増した。(○) 人権教育のいっそうの取組みに努めていきたい。 ・暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案は16件で、昨年度を下回った。人権教育の取組みや丁寧な生徒指導の成果と思われる。(○) (2) ア・学校行事の満足度は62%と減少した。体育祭、文化祭などの学校行事の見直しやさらなる内容の充実が必要であると思われる。(△) ・体育祭の団対抗、文化祭のコンクール形式を新校と一緒にやるなど取組を工夫した。(○) イ・部活動加入率は24.7%と前年度を上回った。部活動加入増に向け、体験入部や参加への積極的な声掛けをしたことで部活動に魅力を感じ、部活動加入率の増加につながったと思われる。(○)

府立北淀高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進 （特に経済的自立・社会的自立に関わるもの）</p>	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。</p> <p>(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。</p> <p>(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 頭髪指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の頭髪指導を継続し、さらに指導の定着を図る。 <p>イ 通学マナーの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 <p>ウ 遅刻指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全校を挙げて遅刻指導の徹底と定着を図るが、指導方法についてはより効率の良い改善を行う。 <p>エ 挨拶指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。また、挨拶についての新たな取組を検討、実施する。 <p>(2) 生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での組織的連携、家庭・中学校とのさらなる連携を進め、また、教育相談室や保健室での生徒への丁寧な対応を通して、生徒が教育相談をさらに有効活用できるように教育相談体制を充実させる。 ・精神科医師や大学の教員との事例検討会等を通して、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 ・担任団と管理職、他の組織との連携を一層深めるとともに、家庭との連携、外部機関との連携をさらに図り、S S WやS Cの活用も通してさらにきめ細やかな指導を行う。 ・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。 <p>(3)</p> <p>ア 地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教職員、P T Aが協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。フォークソング部、和太鼓部、ボランティア部等を中心に高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流活動を促進する。 <p>イ P T A活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動を積極的に展開し、より広範な家庭連携を構築する。 <p>ウ 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の取組みを地域や保護者等に丁寧にアピールする。 	<p>(1)</p> <p>ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒の数が前年度を下回ったか。(82件)</p> <p>イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が前年度より減少したか。(60件)</p> <p>ウ・遅刻総数が前年度を下回ったか。同時に欠席総数も前年度を下回ったか。(遅刻総数 16,415件、欠席総数 12,317回)</p> <p>エ・学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的意識が前年度を上回ったか。(62%)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談連絡会、支援委員会を通して充実した生徒支援の論議が出来たか。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が生徒・教員ともに前年度を上回ったか。(生徒項目5:69%、項目6:57%、教員項目6:97%、項目7:87%) ・中退者数が前年度を下回ったか。(32名) ・校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保に効果が見られたか。 <p>(3)</p> <p>ア・地域清掃の参加人数が前年度を上回ったか。(2回のべ112名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域交流の取組み回数が前年度を上回ったか。(和太鼓部5回、フォークソング部8回、文化健康部2回、計15回) <p>イ・P T A活動における学校行事の保護者の参加数が前年度を上回ったか。(290名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答が前年度を上回ったか。(61%) <p>ウ・学校教育自己診断において、「教育情報の発信に力を入れている」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(76%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒は72件であった。引き続き指導をすすみたい。(○)</p> <p>イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数は前年度より大幅に減少し、25件であった。(◎)</p> <p>ウ・遅刻総数は9123件と4割5分減少、欠席総数も7973件と3割5分減少した。全校挙げての遅刻指導の成果と考えられる。(◎)</p> <p>エ・学校教育自己診断における挨拶に対する生徒の肯定的意識は58%と前年度を下回った。引き続き、呼びかけを強めていきたい。(△)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種連携については、校内での情報共有と議論を踏まえ、中学校との情報共有や、行政機関、病院等との連携が深まった。とりわけ、行政機関の福祉担当と連携が深まり、生徒支援に活かされている。(○) ・学校教育自己診断における教育相談に対する肯定的な回答は、生徒については「先生は、いじめなど、私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」が60%と減少、「担任の先生以外にも保健室・相談室など、気軽に相談することができる先生がいる」が63%と増加、教員については、それぞれ93%、83%と減少した。教育相談に関する教員の意識を高め、生徒層の変化を踏まえ、さらに丁寧な教育活動に取り組んでいく必要がある。(○) ・中退者数は前年度を大幅に下回った。転学者も減少している。さらにきめ細やかな指導を進めたい。(◎) ・業務の効率化のため、分掌再編を行うこととした。生徒の規範意識を高めることで特別指導の時間が減り、生徒と向き合う時間を増やすことができた。また、「働き方改革」の取組みをすすめ、教員の超過勤務も減少した。(◎) <p>(3)</p> <p>ア・地域清掃の参加人数は2回で150名であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域交流の取組みについては、和太鼓2回、フォークソング部7回、文化健康部2回、計11回であった。外部からの要請の減少により、回数が下回った。地域と連携し、活動の場をさらにひろげていきたい。(△) <p>イ・P T A活動における学校行事に参加した保護者の数はおよそ240名で、前年度を下回った。保護者に対して学校行事の情報発信を積極的に行っていきたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答は54%と減少した。P T A役員と連携し、活動の内容を検討していきたい。(△) <p>ウ・学校教育自己診断における「教育情報の発信に力を入れている」に対する肯定的な回答は77%と微増した。(○)</p>
---	--	---	--	---

府立北淀高等学校

<p>5 教職員の資質向上とOJTの充実</p>	<p>(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。</p> <p>(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>(3) 教職員のICT活用能力を高める。</p>	<p>(1)(2) ア・教育センターの研修なども利用し、ミドルリーダーの育成に努める。</p> <p>イ・首席等を活用し、初任者等の教職経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。また、授業改善のために、教科毎の授業見学・改善の取組みの中で、特に初任者の育成に配慮をする。</p> <p>ウ・管理職の丁寧な授業見学助言指導及び教職員相互のブレインストーミング等を活用した研修など、新転任の教員等に対して、OJTを中心とした取組みを計画的・組織的に実施する。</p> <p>(3) 教職員の授業におけるICT活用率を上昇させる。</p>	<p>(1)(2) ア・外部研修等を積極的に活用し、首席等につながる人材を育成できたか。</p> <p>イ・初任者の授業改善につながる授業分析や指導助言を複数回実施できたか。</p> <p>・初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施できたか。</p> <p>・初任者等教職経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果(項目3～9の平均)が4点満点中2.8を上回ったか。</p> <p>ウ・計画的組織的に研修を実施できたか。</p> <p>(3) ICT機器を活用する教員の割合が70%以上となったか。</p>	<p>(1)(2) ア・外部研修等には、若手を中心に積極的な参加ができています。新校の立ち上がりには若手が積極的に参画し、成長していると感じている。(○)</p> <p>イ・初任者は勿論のこと、全教員が授業アンケートを使った振り返りや分析、改善を行なっている。(○)</p> <p>・初任者の校内研究授業、研究協議を2回実施した。(○)</p> <p>・初任者の授業アンケートの3～9の平均値は3.34であった。(○)</p> <p>ウ・校内研修については、9月に全校一斉授業見学を行うなど、新たな取り組みをはじめた。初任者については、首席が中心になって、回数、内容とも充実した研修を実施することができた。(○)</p> <p>(3) 毎回の授業でICT機器を使用する教員が30%、およそ半数の授業において使用する教員を含めると60%、必要に応じて何度か使用している教員まで含めると88%が活用している。(◎)</p>
------------------------------	---	--	--	---